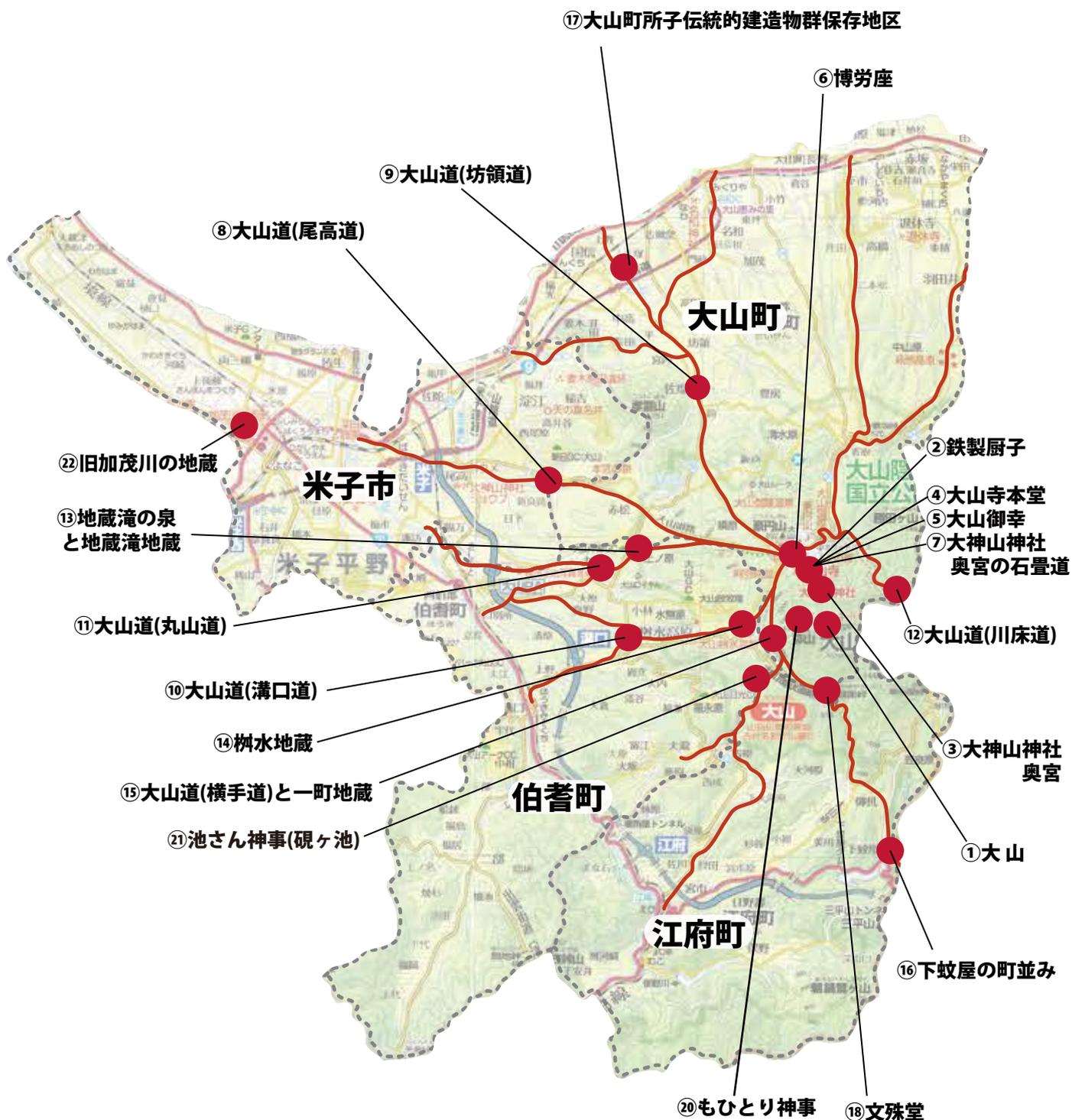


① 申請者	◎大山町、伯耆町、 江府町、米子市	②タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
【地蔵信仰が育んだ日本最大の ^{だいせん} 大山牛馬市】			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>^{だいせん}大山の山頂に現れた万物を救う地蔵菩薩への信仰は、平安時代末以降、牛馬のご加護を願う人々を大山寺に集めた。江戸時代には、大山寺に庇護され信仰に裏打ちされた全国唯一の「大山牛馬市」が隆盛を極め、明治時代には日本最大の牛馬市へと発展した。</p> <p>西国諸国からの参詣者や牛馬で賑わった往来である大山道沿いには、今も往時を偲ぶ石畳道や宿場の町並み、所子に代表される農村景観、「大山おこわ」など独特の食文化、大山の水にまつわる「もひとり神事」などの行事、風習が残されている。ここには、人々が日々「大山さんのおかげ」と感謝の念を捧げながら大山を仰ぎ見る暮らしが息づいている。</p>			

構成文化財の位置図



● … 全域を対象とするもの
⑱ 「大山おこわ」と「大山そば」

— … 「大山道」を示す

ストーリー

◆日本最古の「神坐す山」に生まれた「地藏信仰」

大山は、『出雲国風土記』の国引き神話に「伯耆国なる火神岳」として登場する、文献にみえる日本最古の神山です。山頂からの雄大な眺めは、大山の裾野に伸びる弓ヶ浜半島を引き綱にして能登から土地を引き寄せ、その綱を繋ぎとめた杭が大山だといういにしえの神話の世界をほうふつさせます。

中腹の大山寺に祀られる地藏菩薩は、山頂の池から現れたとされ、水を恵み、現世の苦しみから万物を救うと信じられた仏さまです。このため、人々は延命をもたらす「利生水」と地藏菩薩のご加護を求めて参詣し、五穀豊穰も祈願しました。このように地藏菩薩と水とが密接に結びついた大山独特の地藏信仰が、鎌倉時代以降、「大山信仰」として伯耆のほか山陰、山陽諸国にまで信仰圏を広げて行きました。



◆信仰と結びついた全国唯一の牛馬市

地藏菩薩が生きとし生けるものすべてを救う仏さまであることから、平安時代に大山寺の高僧、基好上人が、牛馬安全を祈願する守り札を配るとともに、山の中腹に広がる牧野で牛馬の放牧も奨励しました。こうして大山の「牛馬信仰」が広まって行きました。平安時代の説話集『今昔物語集』からは、遠方からの参詣者が牛馬に供物・荷物を運搬させていたことがわかります。生計の柱である農耕に欠かせない牛馬の飼育でしたので、人々は牛馬を曳き連れて大山寺に参って守り札をいただき、牛馬にも「利生水」を飲ませてその延命を祈りました。さらに守り札は牛舎の柱に貼って安全を祈り続けました。

牛馬の育成に適した大山山麓の牧野で育った体格の良い放牧牛は参詣者の注意をひき、また、参詣者が曳き連れてきた牛馬もあって大山寺の春祭りなどに牛くらべ、馬くらべが開かれました。これが発端となって、鎌倉時代以降、次第に牛馬の交換や売買が盛んに行われ、やがて市に発展していったと伝わっています。

江戸時代中頃になると、大山寺が積極的に牛馬市の経営に乗り出し、市は大山寺境内の下にある「博労座」で春祭りに開かれることになりました。この、寺の庇護のもとにという特徴が、信仰が育んだ全国唯一の「大山牛馬市」とされる理由です。やがて祭日以外にも市が立ち始め、西日本各地から多くの人や牛馬が集まるようになり、やがて日本三大牛馬市のひとつと称されるほど隆盛を極めました。そのようすは、歌川広重の作と伝わる扇絵にもいさいきと描かれています。また、その頃から売買が成立した祝い酒の場で歌われた「博労歌」にも「博労さんならここらが勝負、花の大山博労座、西の番所は備前か備中、東の番所は但馬の牛か、中は出雲か伯耆の国か、隠岐の国から牛積んだ船は淀江の浜に着く」と各地から市に集まる賑わい振りが謡われています。とくに足腰の強さで人気の高かった隠岐の牛が着くと、淀江の港には茶店が並び、見物人や牛を商う博労たちで活気に満ちました。



牛馬市は、大山寺の手を離れた明治維新以降も地域の経済を支え、明治中頃には年 5 回まで市が増えて、ついには年間 1 万頭以上の牛馬が商われる国内最大の牛馬市にまで発展しました。

一方で、明治政府が食用牛増産のため輸入雑種牛との交配を奨励したものの、交配牛の品質が不評だったことなどから、県内の牛の頭数は急激に減少し農家の生計を圧迫しました。これに危機感を抱いた鳥取県が優れた和牛を復活させようと、牛馬市で商われた県産牛を中心として、大正 9 年に全国に先駆けて登録事業を開始しました。その後「大山牛馬市」は、鉄道の発達などの影響で昭和 12 年の春にその幕を閉じますが、登録事業はその後も和牛（肉牛）の品種改良に大いに活用されて、今、世界が注目する「和牛」誕生へのいしずえとなりました。

◆「大山信仰」と牛馬市をささえた「大山道」と道沿いの人々の暮らし

中世以来、大山を西国諸国に広く及ぶ大山信仰圏と牛馬流通圏の中心に位置づけ、その往来を支えたのが大

山寺から放射状にのびる「大山道」(坊領道、尾高道、溝口道、丸山道、横手道、川床道)です。春祭りと牛馬市の日の前後は、国境の番所での通行人改めも特別なはからいがされたほど、多くの人々が往来しました。このため、大山道沿いの村々には博労宿や参詣者の宿も相次いででき、大いに繁盛しました。

横手道沿いで博労宿が軒を連ねた下蚊屋や御机の街道筋には往時の面影が、また、坊領道沿いの集落では各家で仔牛生産をした家屋の配置や牛繋ぎ石などが今も残っています。とりわけ、所子の農家では、牛が母屋と同じ屋敷地の中に建てられた厩で飼われ、大山の山頂で汲まれた霊水や摘まれた薬草を仔牛に含ませるなど、牛馬市に出す牛を大切に育てていた当時のようすをよくとどめています。



坊領道沿いの所子地区の町

また、横手道には山陽筋からの途中で参詣が困難となった人が大山を望んで拝むための鳥居や、女人禁制の時節などに女性が拝礼する場所だった「文殊堂」、川床道には苔むした石畳道、各道の道端には地藏菩薩にちなむ一町地藏などが残っています。川床道にある一息坂峠では、江戸時代中頃に地元の人が、春祭りに参詣する人々にふるまい始めた湯茶や精進料理の接待が、いまも代々続けられています。



大山おこわ

参詣者の携帯食として親しまれた食が「大山おこわ」です。山の幸に恵まれた大山山麓では、ワラビ等の山菜やタケノコ、栗といった具材と餅米を混ぜて蒸したおこわが祝い膳には必ず出されました。そのおいしさと餅米ならではの日持ちと腹持ちのよさから、いつしかそのおにぎりが大山参詣の携帯食として喜ばれるようになったのです。また、基好上人が栽培を奨励したと伝わる蕎麦を挽いた「大山そば」も牛馬市でふるまわれ、市の隆盛とともに大山の名物となっていきました。この「大山おこわ」「大山そば」は今も大山を代表する味覚として親しまれています。

◆裾野に広がる「大山信仰」

「大山信仰」に由来する水にゆかりある行事として、山中の池から水を汲み清めとする「もひとり神事」や「池さん神事」、たる酒を池に注ぎ、その水を汲んで持ち帰って田に流す雨乞い祈願などが今も続いています。また、五穀豊穰を祈る風習として、田植え前に大神山神社奥宮で豊作を祈る「山入れ」の行事や、伯耆やその周辺諸国の田植唄で詠われる「大山歌」などもあります。



もひとり神事

伯耆では、子どもは数えで2歳が厄年と言われ、親が背負って大山寺に初参りする「二つ児詣り」や数え13歳で無病息災を祈る「十三詣り」があり、大山土産の飴を持ち帰って村人に配りました。山陽筋からは、縁者を失った人がはるばる大山寺を訪ね、地藏菩薩の救いを願って賽の河原で供養しました。これらも「大山信仰」に由来する習俗です。

◆「大山さんのおかげ」

このように、水の恵みに延命を求める地藏信仰に由来する「大山信仰」と「牛馬信仰」は、牛馬市の隆盛も手伝って西日本に大きな信仰圏を形成しました。それは、あたかも大山からの天恵の水が伏流水となったがごとく、長い歳月を経て人々の生活文化の中に沁みわたり、静かに根付いたものです。そして、とりわけ裾野に暮らす人々は「大山さんのおかげ」と日々感謝しつつ大山を仰ぎ見続けているのです。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	大山 (だいせん)	未指定	中国地方最高峰。稀有な自然にも恵まれ、大山 ^{おき} 隠岐国立公園の核をなす山。いにしえより信仰の対象とされ、日本四名山にも数えられる霊山である。この地域のランドマークであり、シンボリックな存在として、ストーリーの中心に位置する。	大山町、伯耆町、江府町
②	鉄製厨子 (てつせいずし)	国重文 (工芸品)	承安 2 (1172) 年に大山寺周辺の地主・紀成盛が大山寺本社 (大智明 ^{だいちみょう} 権現社) の再建に際して新たな本尊となる金銅製の地蔵菩薩像とそれを納める厨子を鑄造寄進したもの。銘板にこの再建事業の最高責任者として当時の大山寺の最高位にあった基好上人の名が見える。	大山町
③	大神山神社奥宮 (おおがみやまじんじゃおくのみや)	国重文 (建造物)	神仏習合であった大山寺において、地蔵菩薩の化身である大智明 ^{だいちみょう} 権現を祀った本社。現存建物は文化 2 (1805) 年に再建された権現造の社殿である。長く地蔵信仰を核とする大山信仰の中心施設だったが、明治 8 (1875) 年に神仏分離によって大山寺が解体された際に、大神山神社奥宮と定められた。	大山町
④	大山寺本堂 (だいせんじほんどう)	国登録有形 (建造物)	明治 36 (1903) 年に大山寺が再興された際、大山寺中門院の大日堂が新本堂とされた。その本堂が昭和 3 (1928) 年に焼失したため、昭和 26 (1951) 年に再建されたのが現在の大山寺本堂で、神仏分離によって旧本社から取り除かれた地蔵菩薩を祀った。今日の大山の地蔵信仰の中心をなす堂宇である。	大山町
⑤	大山御幸 (だいせんみゆき)	町指定文化財 (美術工芸)	大山寺の春祭りには、七社神輿の行列が出て盛観を極めた。これを見物するのも参詣者たちの楽しみであった。今も大山御幸として行われ、神輿は町指定文化財となっている。稚児 ^{ちご} 行列とともに地域住民が参加する行事として賑わっている。	大山町

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
⑥	博労座 (ばくろうざ)	未指定	大山寺付近の広大な牧野周辺で開催されていた牛馬市が、享保11(1726)年から改革がはじまり、組織や制度が整えられたとされる。 大山寺境内の前方に広がる広大な草地が牛馬取引会場の博労座と定められ、昭和12(1937)年までこの場所で多くの牛馬の取引が行われた。	大山町
⑦	大神山神社奥宮の石畳道 (おおがみやまじんじゃ おくのみやのいしだたみ みち)	未指定	牛馬市が盛んな頃に整備された大山寺本社の大智明権現社と本坊の西薬院 <small>さいやくいん</small> へ向かう参道として残された延長700mの石畳道。 日本一長いと言われるこの石畳道が、大山信仰が盛んだった頃の様子をよく伝えている。	大山町
⑧	大山道(尾高道) (だいせんみち(おだか みち))	未指定	大山道の一つで、当地域の中世の要衝であった尾高城 <small>おだかじょう</small> と大山寺を結んだ古くからの参詣道で、江戸時代には旧会見郡や米子城下町の商人などが多く行き交う主要参詣道だった。	米子市 大山町
⑨	大山道(坊領道) (だいせんみち(ぼうり ょうみち))	未指定	大山道の一つで、大山寺と大山北麓の大山寺領内の村々、鳥取藩領の淀江港、淀江宿及び御来屋宿などの地域を結んだ南北筋の主要な参道。	大山町
⑩	大山道(溝口道) (だいせんみち(みぞく ちみち))	未指定	大山道の一つで、出雲街道の溝口宿と大山寺とをつないだ道。榊水別れで横手道に合流する。参詣者・牛馬を曳いた博労が通った参詣道。	伯耆町
⑪	大山道(丸山道) (だいせんみち(まるや まみち))	未指定	大山道の一つで、大山寺の代官所があった丸山から「分けの茶屋」で尾高道に合流するまでの一里の道。 牛馬市が盛んになってからは博労宿もでき、博労たちは、春祭り前日から丸山に宿をとり、当日の早朝に出立した。町並みや道の雰囲気は往時の様子がよく伝わる。	伯耆町
⑫	大山道(川床道) (だいせんみち(かわど こみち))	未指定	大山道の一つで、倉吉方面からの参詣者や牛馬を曳く博労が通った道。 近世に篤信者が整備した石畳が今も良く残り、往時の人と牛馬が行き交った姿をよく伝えている。 現在も軽ハイキングコースとしてよく利用されている。	大山町

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
⑬	地蔵滝の泉と地蔵滝地蔵 (じぞうだきのいずみと じぞうだきじぞう)	未指定	地蔵滝の泉は、大山道(丸山道)沿い にあって、古くから参詣者や博労、牛 馬が立ち寄って喉を潤し、気力回復し て大山寺をめざす憩いの場として知 られた名泉「利生水」。 現在も町の水源となっている。 その傍らに佇む地蔵菩薩の石像は、参 詣者や牛馬の道中の安全を願って、大 山信仰の厚信者によって建てられた ものである。	伯耆町
⑭	柵水地蔵 (ますみずじぞう)	未指定	古くから知られた柵水原の名泉「利生 水」で、人や牛馬が水をいただく場所 として有名であった。元禄9(1696) 年に水が涸れて二年続きの凶作にな ったため、人々は石で柵形を造って石 地蔵を立て、48日間にわたって供養を 行った。これが今も地蔵尊祭として地 域に続いている。	伯耆町
⑮	大山道(横手道)と一町 地蔵 (だいせんみち(よこて みち)といっちょうじぞ う)	未指定	大山道の一つ横手道は、山陽筋からの 主要参詣道である。沿道には、大山詣 りの参詣者のために、一町(約109m) ごとに道標として地蔵石像が置かれ た。そのほとんどが、地蔵信仰に基づ く他界信仰によって大山寺を訪れた 山陽筋の人々が寄進したものである。	大山町 伯耆町 江府町
⑯	下蚊屋の町並み (さがりがやのまちな み)	未指定	大山道の一つ横手道沿いの下蚊屋村 は、上方や備前方面から博労座に訪れ る人たちの博労宿として栄えた。今も 当時の雰囲気がよく伝わる。	江府町
⑰	大山町所子伝統的建造物 群保存地区 (だいせんちょうところ ごでんとうてきけんぞう ぶつぐんほぞんちく)	国選定 (伝統的建造 物群保存地 区)	大山道の一つ坊領道沿いの所子集落 では、母屋に近い厩 ^{うまや} で牛馬が飼われ、 搾乳や仔牛生産を各屋で行っていた 様子が建物配置から分かる。 集落内には牛繋ぎ石や牛馬万人供養 塔など牛馬と関わる生活の様子が町 並みに残り、大山のもひとり神事で採 取された薬草を仔牛に食べさせた話 も伝わる。	大山町
⑱	文殊堂(もんじゅどう)	未指定	小さな赤い建物で、大山寺の西からの 入り口付近にあたり、女人禁制の時節 などには、ここが女人遥拝所になっ ていた。 堂の西側の広場は、昭和の初めまで大 山牛馬市に往来する牛馬の休み場所 だった。	江府町

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①9	「大山おこわ」と「大山そば」 (「だいせんおこわ」と「だいせんそば」)	未指定	<p>【大山おこわ】 大山寺の春祭りや博労座の牛馬市に集まった人たちが、牛馬市や大山参りの弁当として親しんだ食べ物。 現在も大山山麓の伝統食として親しまれ、家ごとに具材や味付けに個性がある。</p> <p>【大山そば】 平安時代に基好上人が牛馬の放牧とともに大山裾野の牧野で栽培を奨励した蕎麦に端を発し、牛馬市で食べられて名物として親しまれた「大山そば」は、現在も大山山麓の伝統食として親しまれている。</p>	大山町 江府町 伯耆町 米子市
②0	もひとり神事 (もひとりしんじ)	県無形 (民俗)	もとは大山寺の弥山禪定という行で、僧侶にとっては大山登頂が一生に一度だけ許される命がけの行であった。神仏分離後は大神山神社奥宮が祈祷、霊水汲み、薬草採取を神事として受け継ぎ、現在も執り行われている。大山の原初信仰を伝える貴重な行事である。	大山町
②1	池さん神事(硯ヶ池) (いけさんしんじ(すずりがいけ))	未指定	大山の水信仰に端を発する信仰。 大山七ヶ池のひとつ「硯ヶ池」から御神水 <small>すずりがいけ</small> を汲みとり、清浄潔斎を祈る神事として現在も行われている。	伯耆町
②2	旧加茂川の地蔵 (きゅうかもがわのじぞう)	未指定	安永年間(1773年～1781年)に宮大工の彦租伊兵衛が、加茂川で亡くなった子どもたちの供養のために、川や橋のたもとに36カ所の地蔵札所を奉納し、祠堂を建てたのが始まりとされる。 旧加茂川 <small>かもがわ</small> 沿いに設けられたこの地蔵札所が、地蔵信仰が大山の裾野まで行き渡っていたことを物語っている。	米子市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

①大山 (だいせん)



④大山寺本堂



②鉄製厨子



⑤大山御幸



③大神山神社奥宮



⑥博労座



⑥-1 江戸時代後期



⑥-2 昭和6年



⑥-3 現在

⑦大神山神社奥宮の石畳道



⑧大山道 (尾高道)



⑨大山道 (坊領道)



⑩大山道 (溝口道)



⑪ 大山道 (丸山道)



⑮ 大山道 (横手道) と一町地蔵



⑫ 大山道 (川床道)



⑯ 下蚊屋の町並み



⑬ 地蔵滝の泉と地蔵滝地蔵



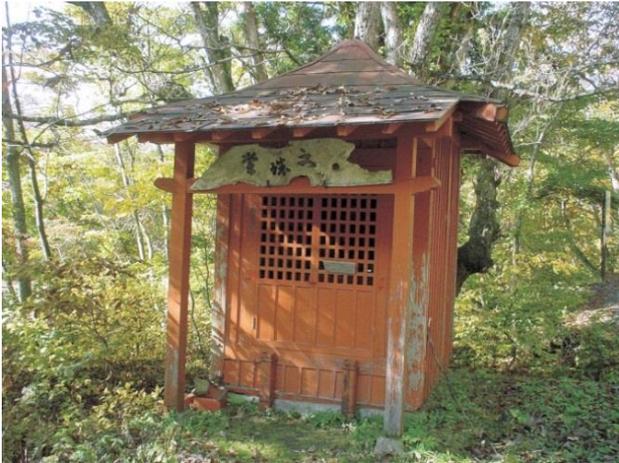
⑭ 榊水地蔵



⑰ 大山町所子伝統的建造物群保存地区



⑱ 文殊堂



㉑ 池さん神事 (硯ヶ池)



⑲ 「大山おこわ」と「大山そば」



㉒ 旧加茂川の地蔵



㉓ もひとり神事



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
33	地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市

(1) 将来像 (ビジョン)

中国地方最高峰の大山を中心に育まれた地蔵信仰は、大山山麓の圏域に強くその影響を与え、日本遺産のストーリーを通じて「大山さんのおかげ」という言葉で表される。「大山さんのおかげ」による恵み豊かな「天恵の地」であることを再認識し、地域活性化への取り組みを進めることにより、地域への誇りを醸成し、地域資源保護の担い手、地域経済活動の担い手の育成を目指していく。

日本遺産を活用した地域活性化を通じて次のような地域となることを目指す。

- ・日本遺産のストーリーに紐づいた様々なプログラムを通じて、国内外から多くの観光客が訪れ、「天恵の地」を体感し、またそれらが人々により守られてきたことを体感していただき、「またここに来たい」「ここに住みたい」と感じる地域

- ・圏域の人々が「大山さんのおかげ」を常に意識することができ、地域に誇りを持って生活している地域。

- ・地域の魅力が増すことで、観光客数・関係人口が増加し、地域経済が好循環する地域。また関係人口増により文化財の保存・活用に関わる人が増え、持続可能な状態となった地域

各市町総合計画等での日本遺産に関連する項目の位置付けは以下の通りである。

日本遺産大山山麓魅力発信推進協議会を構成する1市3町では、いずれも※総合計画等において『「大山を中心とした豊かな自然環境」「多彩な観光資源」「特有の歴史・文化」が地域に対する誇りと町の魅力を高める要素である』との認識を示しており、これらの『有効活用を行い、観光や産業創出を行っていく』と掲げている。

『大山町観光戦略(令和3年7月)』では、日本遺産を「地域の魅力を最大限に引き出す魅力あるコンテンツ」と位置付けており、「より持続可能な集客・消費を求めていく」と掲げている。

『第2期鳥取県総合戦略「鳥取県令和新時代創生戦略」』では、『日本遺産の認定を受けた「三徳山・三朝温泉」「大山山麓圏域」「麒麟のまち圏域」など、豊かな自然を素材とする観光資源が多く存在することが本県の大きな強みであり、体験メニューの充実や受け入れ環境のさらなる整備により、観光地の魅力化を進めるとともに、観光産業を基幹産業として成長させる』と掲げている。

さらに「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム2025」では、「優先的な取り組み」として『日本遺産「大山」のストーリーを生かしたツアー等の充実化・磨き上げを行うとともに、ガイドの育成を推進する』と位置付けている。

※総合計画等 『大山町総合計画(令和3～5年度)』『第3次伯耆町総合計画(令和3～7年度)』『第2期江府町まち・ひと・しごと創生総合戦略』『米子市まちづくりビジョン

（第4次米子市総合計画及び第2期米子市地方創生総合戦略）』

以上の将来的なビジョンに基づき、地域活性化のための取り組みを推進する。

（2）地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：ガイダンス施設（大山自然歴史館、大山町観光案内所）への来訪者数の合計

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	85,688人	43,054人	集計中	86,200人	86,800人	87,500人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産である構成文化財を周遊するルートの核となる2施設の来訪者数について、新型コロナウイルス感染拡大前（令和元年度）の来訪者数を基準とし、2024年には2%以上の来訪者数の上昇を目指す。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②-A：地域の歴史文化に誇りを感じる住民の割合

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	79%	82%	集計中	83%	84%	85%
目標値の設定の考え方及び把握方法	認定当初より実施している小・中学生へのアンケートにより日本遺産の認知度を把握。「日本遺産を知っている」の回答率について2020年度を基準に2024年には3%以上の認知度アップを目指す。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること

指標③-A：日本遺産関連で開発された商品・サービス数

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	4	2	集計中	4	5	6
目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産の認定ストーリーや構成文化財を活用したお土産物、旅行商品・体験商品の年度ごとの新規造成件数					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：文化財の保存・保護や活用および日本遺産を含む観光振興に用途を指定して納付されたふるさと納税額の合計						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	—	211,360 千円	集計中	212,500 千円	213,500 千円	214,530 千円
目標値の設定の考え方 及び把握方法		各市町のふるさと納税額のうち、文化財の保存・保護や活用、日本遺産を含む観光振興等に用途を指定して納付されたふるさと納税額の各年度毎の合計。2020年を基準とし、2024年には1.5%の増加を目指す。				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：鳥取県西部圏域への観光入込客数						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	108万人	72万人	集計中	109万人	110万人	111万人
目標値の設定の考え方 及び把握方法		「鳥取県観光入込動態調査」により把握された観光入込客数。新型コロナウイルス感染拡大前（令和元年度）の来訪者数108万人を基準とし、2024年には2.5%以上の入込客の増加を目指す。				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－B：鳥取県への宿泊者数						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	2368千人	1728千人	集計中	2377千人	2386千人	2396千人
目標値の設定の考え方 及び把握方法		「鳥取県観光入込動態調査」により把握された県内宿泊客数。新型コロナウイルス感染拡大前（令和元年度）の宿泊者数2368千人を基準とし、2024年には1.2%以上の宿泊客の増加を目指す。				

(3) 地域活性化のための取組の概要

(1) 推進体制の強化

①将来像を実現するための取り組みを効果的に実施するため、「日本遺産大山山麓魅力発信推進協議会（以下、協議会）」の構成員はもとより、その他観光関連団体、NPO 団体、市・町包括連携協定先、構成文化財管理者、民間事業者など圏域関係者とのネットワークを更に広げ、各取り組み効果を地域全体に波及させる仕組みを構築する。

②1市3町より拠出している負担金や、協議会ホームページでの有料広告収入、各市町のふるさと納税などによる収入を得ることで、協議会の自立した活動体制を強化する。また構成文化財の保存・保護や活用、日本遺産を含む観光振興に用途を指定して納付されたふるさと納税のほか所有者等が文化財関連等の補助金制度を利用して得た収入等により、構成文化財の修繕や施設整備を行う。ふるさと納税のさらなる活用についても検討を行う。

(2) 観光事業の促進

日本遺産構成文化財やそのストーリーに紐づいた旅行商品、体験商品の開発・企画運営の支援を行う。

① 日本遺産×SDGs、日本遺産×アクティビティなど新たな旅のカタチを提案する。

当圏域はジャパンエコトラック発祥の地であり、ジャパンエコトラック認定ルートがそのまま日本遺産の構成文化財と重なる部分がある。トレッキング、カヤック、自転車といった人力による移動手段で、歴史や自然を満喫・体感しながらスローに楽しめる旅を提案していく。また当圏域はナショナルサイクルルートの認定に向けて活発に活動しており、それら推進団体とも連携し PR を行う。グリーンスローモビリティ導入の検討を行い、観光客へのサービス向上、来訪のきっかけづくりとする。日本遺産×ロゲイニングといったスポーツ系アクティビティも開催実績があることから、アクティビティを入り口とした誘客にも取り組む。

② 旅行会社・民間企業とのタイアップ

旅行会社による関連旅行商品の企画運営、運輸・鉄道会社、旅館ホテル、アウトドアブランド会員サイトにおいて全国規模で日本遺産の周知を行う。また、ツアー企画等商品造成のための商談会への参加を行う。

③ 構成文化財の観光活用の促進

構成文化財の観光活用の促進のため、所有者・管理者と事業実行団体との橋渡しを行い、観光活用への支援を行う。

④ インバウンド向け事業

アフターコロナのインバウンド需要に対応するため、(一社)山陰インバウンド機構と連携し、対象市場に向けた情報発信・プロモーションに参加する。また、山陰限定通訳案内士へのスキルアップ研修を行う。構成文化財等案内板等の多言語化整備を引き続き行っていく。

(3) 普及啓発

日本遺産を中心とし、地域の歴史・文化に誇りを持つ人材を育成するため、小学生より始まる『ふるさと学習』において日本遺産のストーリーを取り入れた学習を支援する。ガイドボランティアや地域コミュニティ組織に対し学習会を行い、認知度の向上を図る。プ

ロガイド養成講座の開催、タクシー・ハイヤー協会に対しガイドドライバー養成講座を行う。

(4) 情報発信

継続的なパブリシティ活動を行い、新聞・テレビをはじめとしたメディアによる周知を増やし、日本遺産ポータルサイトや協議会のホームページ、リーフレット等の多くの情報ツールや展示スペースを活用し、国内外に構成文化財やストーリーを情報発信し、引き続き日本遺産の認知度向上を目指す。また「日本遺産サミット」や「日本遺産の日イベント」などのPRの機会を捉え活用し、これまで以上の知名度向上、集客力の向上を図る。

JNTO 認定観光案内所（米子国際観光案内所、大山町観光案内所）（カテゴリー1）と連携し、1人でも多く日本遺産のガイダンス施設（大山自然歴史館、大山町観光案内所（コモレビト））を訪れていただき、日本遺産ストーリーや構成文化財に触れる機会・周遊の機会を創出する。

(4) 実施体制

平成28年の認定以来、行政および観光関連団体、民間企業から成る日本遺産大山山麓魅力発信推進協議会は、事務局がリーダー的な役割を担い、各市町の観光関連部局や教育委員会部局、広域観光推進団体の大山山麓・日野川流域観光推進協議会や地域の商工団体、民間の観光推進に取り組む任意団体と密接に連携しながら取り組みを進め、一定の成果を挙げてきた。

今後はこれら団体と幅広く関係を持ち協働してきた関係をさらに深化させ、より観光推進と構成文化財の保存・活用を強力に進めていく。

(新たな取り組み)

令和3年度に当協議会は観光関連事業者（観光協会、DMO）や商工関連団体が役員として加入し、新体制となった。

令和4年度からは当協議会による意思決定を基本としながら、日本遺産推進の取り組みをさらに持続的かつ効果的に実施していくため、事業推進部会及び民間事業者を主体とした市町部会を設け、さらに検討委員による検証を行いつつ、事業を進めていく。

地域プロデューサーと協議会・事業実施団体との連携が十分でなく、その存在を事業に活かしきれなかった反省に立ち返り、スーパーバイザー（監修者）を設置する。圏域全体の文化・歴史・また経済活動に明るく、地域プロジェクトに実績のある方に委嘱し、PDCAサイクルを通して、事業推進部会、市町部会にかかわらず横断的なアドバイスをいただくことにより、取り組みを実効性あるものとしていく。同時に地域プロデューサーの育成を行う。さらにインバウンドに取り組む広域DMOである（一社）山陰インバウンド機構にも参画いただき、海外からの観光客に向けた誘客にも取り組んでいく。

① 事業推進部会の役割

PDCAサイクルのPlanを担う。大山町副町長をプロジェクトリーダーとし、これまでの文化・観光・海外経験を活かし社会情勢の変化にも迅速かつ的確に対応しながら、事業企画、実施を統括する。各部長が把握する部会の取り組みについて、地域に応じた実情を加味しながら実を結ぶよう仕向けて行く。また、関係部局や各部会が協力しながら一体的に取り組みを推進できるよう連絡調整を行う役割も担う。

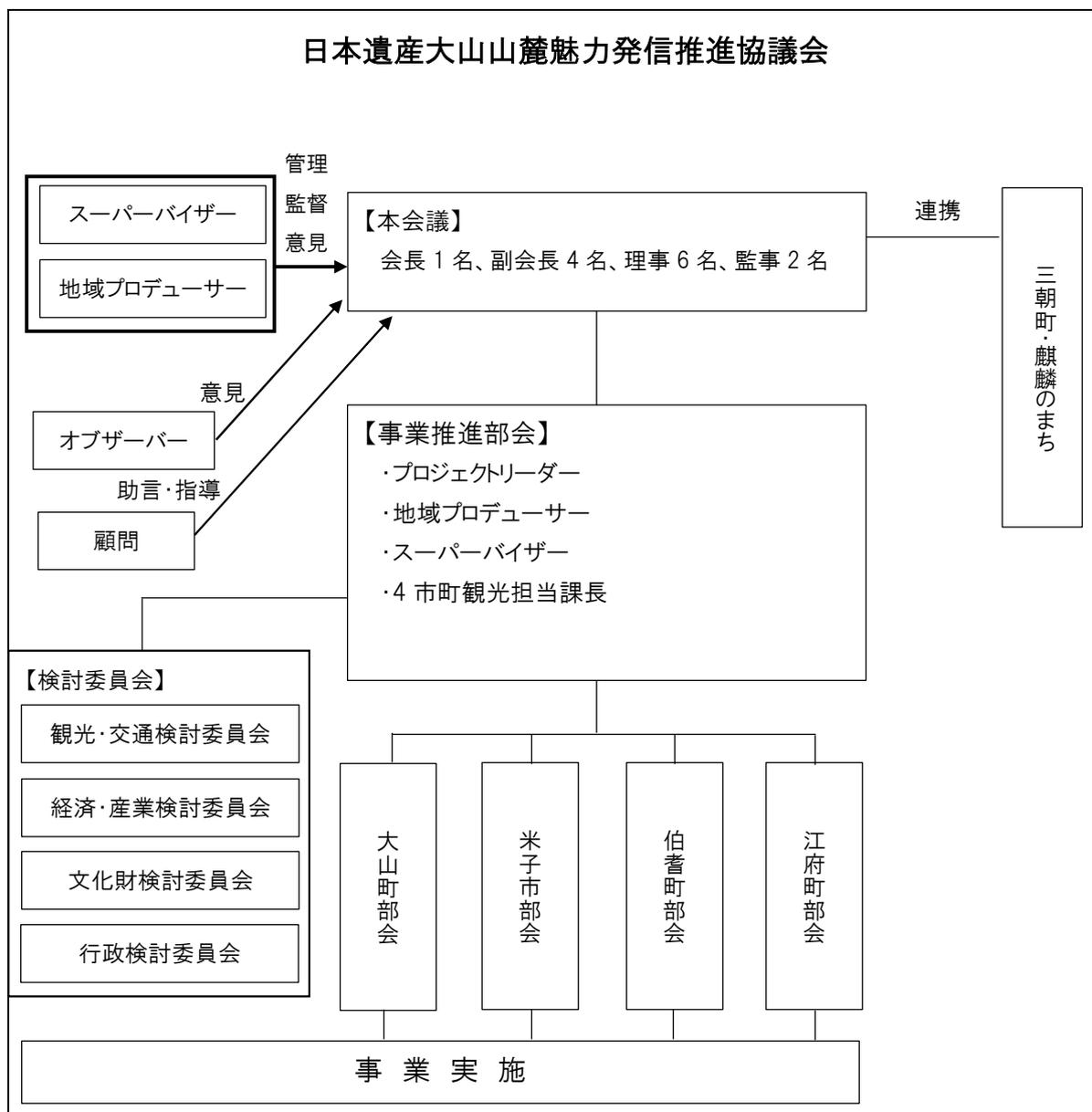
②検討委員会の役割

PDCA サイクルの Check を担う。主に観光・交通団体、経済団体、文化財関連団体、行政関連団体から成り、地域の各専門分野の立場から、あるいは経済活動における最前線の立場から取り組みが浸透しているのか、また実効性あるものとなっているのかについて、検証を行う。

③市町部会の役割

PDCA サイクルの Do&Action を担う。各市町の実情を踏まえ、地域おこし協力隊や地域づくり団体、商工会、道の駅、文化関係団体、民間企業、構成文化財所有者・管理者などを構成員とする。地域プロデューサーと協働することにより、事業へのアドバイスを得るとともに、地域プレーヤー（ガイド、商店など）の取りまとめやプロデューサー発案の事業立ち上げなどで、地域が日本遺産を通じて活発になる体制を構築する。

【組織図】



[人材育成・確保の方針]

日本遺産事業にかかわる人材の確保においては、日本遺産大山山麓魅力発信推進協議会市町部会での Do&Action の活動を通じて、地域プレイヤーの中からアイデアと実行力ある人材を確保していく。日本遺産の取り組みにプレイヤーが他のプレイヤーを巻き込んでいき、いわゆる取り組み推進者としての「日本遺産関係人口」を増やしていく。「日本遺産関係人口」が増えることが契機となり、観光、教育、まちづくり、産業などの相乗効果が生まれ、更なる地域人材の確保が進んでいく。

学校教育においては、小学校入学と同時に、年代に応じて「ふるさと学習」を行い、地域の様子や歴史について学びを開始する。出前授業を積極的に行い、ふるさとへの愛着を醸成することで将来の担い手確保に繋げていく。また、当協議会は、『ふるさと学習』のアウトプットとして小学生が来訪者へのガイド活動を行う『大山レンジャー』のような活動に対しても積極的な支援を行う。

大学等との連携においては、大山町は平成 26 年より鳥取大学と包括連携協定を結び、地域課題の解決をテーマに学術分野を問わず協働を行っている。これまでに「大山の地下水の仕組み」や「地域資源の観光活用」といったテーマで研究を行っており、地域行事の担い手の一人となった例もある。今後も主体的な学びの場を提供し、研究を通じた大山山麓の発展と人材育成を行い、地域課題解決の知見・ノウハウを共有していく。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

民間事業者をはじめ関係者の協働による文化観光の自立的、継続的な展開のため、まずは地域内外の人々がストーリーに触れ、またこれを体験できる事業を、宿泊事業者、交通事業者、観光関連事業者といった事業実施主体が継続的に実施できる働きかけを行っていく。具体的には、協議会の検討委員会で、民間事業者のどの事業で日本遺産をどのように活かしていくことができるのかを検証し、事業主と意見交換を行いながら企画・立案に助言するとともに広報媒体の継続的な提供など、事業主が活用しやすいよう支援を行っていく。

協議会の継続的な活動のための財源については、当面構成市町による負担金を中心としながら、民間事業者・団体と協働して日本遺産の取り組みを行っていく。日本遺産魅力発信推進事業終了後は、この形により事業を行っていることから、今後も民間事業者と役割分担をしつつ、相乗的・効率的な運営を行っていく。財源確保の仕組み構築については、協議会において継続的な検討を行っていく。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

各学校で取り組んでいる小中学生への「ふるさと学習」を継続し、若年世代に対して「ふるさとの歴史・文化への愛着と誇り」を醸成する。また、パブリシティ活動を積極的に行い、地元メディアを中心とした新聞・テレビに取り上げられることによって、地域住民に対して取り組みに関わる理解の浸透をはかり、同時にシビックプライドの醸成を図る。

これら活動によって地域住民が、日本遺産への興味・関心を高め、関連するイベントや祭礼への参加者数が増加することで、取り組みに係わる人員が増え、もって大山一斉清掃やお地蔵様清掃をはじめとした構成文化財の景観維持及び保護活動へつなげていく。

また、各構成市町とも文化歴史の保存・観光活用に用途を指定したふるさと納税の受付

を行っており、これを各市町で行う日本遺産関連事業や構成文化財の保護事業に充当していく。一方、所有者等を中心として文化財関連等の補助金制度を利用して、構成文化財の修理や維持に努めると同時に、一般公開などによる活用を積極的に図っていく。

大山町が鳥取大学と締結している包括連携協定を活かし、地域課題として取り上げられている「地域の担い手不足をどう解消していくのか」について大学の知見を得たり、本町への取り組みに助言を得たりするなど継続的に重ね、地域の祭礼の自立的継続や文化財保護の仕組みづくりに繋げていく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	組織体制整備事業		
概要	事業計画の円滑な実施のため、関係者との調整や取り組みの実行を担う体制の整備・強化を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	民間事業者が参画した組織体制の整備	日本遺産の事業活用に意欲的な観光関連事業者協議会への参画を促し、部会と協働しての事業実施や事業者が行う事業への支援を行う。また、事業の有効性についての検証をしてもらう。日本遺産大山山麓魅力発信推進協議会との協働の体制を整える。	協議会(市町部会)
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	組織体制への行政組織以外の参画者数		6 (実績)
2020年			6 (実績)
2021年			7 (実績)
2022年	組織体制への行政組織以外の参画者数		20
2023年	組織体制への行政組織以外の参画者数		22
2024年	組織体制への行政組織以外の参画者数		24
事業費	2022年： 未定 2023年： 未定 2024年： 未定		
継続に向けた事業設計	引き続き大山町が事務局として、構成市町村で支出する負担金をもとに協議会運営を行う。		

(事業番号 1 - B)

事業名	自立・自走に向けた財源検討事業		
概要	組織の自立・自走に向けた財源・体制の明確化に向けた検討を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	自立・自走に向けた財源検討事業	組織の自立・自走に向けた財源・体制の明確化に向け、類似団体の事例を研究し、検討を行う。	協議会(事業推進部会)
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	日本遺産の魅力を高めるための活動に関するふるさと応援寄付額(大山町)		—
2020年			93,223千円(実績)
2021年			集計中
2022年	協議会の収入源の数		3
2023年	協議会の収入源の数		4
2024年	協議会の収入源の数		5
事業費	2022年: 未定 2023年: 未定 2024年: 未定		
継続に向けた事業設計	協議会が主体となって自立・自走に向けた財源・体制の明確化に向け検討を行う。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	日本遺産活用推進事業		
概要	事業計画の実施状況を把握し改善するため、協議会等における情報共有や協議を定期的に行う。また、PDCA サイクルにより目標値の計測や共有を行い、事業の効果を把握し、改善につなげる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	総会の開催	協議会の意思決定を行う。年1回程度実施。	協議会
②	事業推進部会の開催	PDCA サイクルの Plan を担う。各事業の目標値、計画の目標値について部会で共有し、課題の特定や必要な対応について協議。年2～3回程度実施。	事業推進部会
③	検討委員会の開催	PDCA サイクルの Check を担う。事業が実効性あるものとなっているか、検証し、課題の特定を行う。年2回程度実施。	検討委員会
④	市町部会の開催	PDCA サイクルの Do&Action を担う。各地域内で事業を実施する。また、地域間連携を行う。年3回程度実施。	市町部会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	協議会・担当者会の開催頻度		計4回(実績)
2020年			計1回(実績)
2021年			計5回(実績)
2022年	協議会・事業推進部会・市町部会の開催頻度		計8回
2023年	協議会・事業推進部会・市町部会の開催頻度		計8回
2024年	協議会・事業推進部会・市町部会の開催頻度		計8回
事業費	2022年： 未定 2023年： 未定 2024年： 未定		
継続に向けた事業設計	引き続き大山町が事務局として、構成市町で支出する負担金をもとに協議会運営を行う。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - B)

事業名	他の行政計画への位置付け		
概要	地域における文化資源の総合的な保存・活用の中で、日本遺産の位置付けや他の施策との関係性を明確化し、日本遺産の継続的な活用推進を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	他の行政計画への位置付け	日本遺産の趣旨を踏まえ、各種の行政計画と日本遺産の関係性を整理し、地域の長期的構想への組み込みを行う。	協議会、構成市町
②	史跡大山寺旧境内整備基本計画の策定	構成文化財（石畳道、横手道）を含む史跡大山寺旧境内整備基本計画（計画期間 10 年）を策定し、この整備計画について文化庁の認定を目指す。もって、核となる構成文化財を含むエリアの計画的整備が可能となる。	大山町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数の累計		2（実績）
2020 年			2（実績）
2021 年			3（実績）
2022 年	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数の累計		4
2023 年	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数の累計		5
2024 年	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数の累計		6
事業費	2022 年： 0	2023 年： 0	2024 年： 0
継続に向けた事業設計	協議会を通じて計画を策定する構成市町へ働きかけを行う。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3 - A)

事業名	地域プレーヤー育成事業		
概要	日本遺産を活用する人材の探索・育成のため、勉強会を開催する。また、ガイド育成、既存ガイドへのスキルアップ研修を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域プレーヤー探索のための勉強会開催	日本遺産活用に向けた観光事業者による情報交換会や、活用の成功事例の勉強会を行う。	協議会
②	ボランティアガイド育成事業	ボランティアガイドのすそ野を拡げるため、またガイド技術向上のための研修を行う。育成したガイドは各観光協会が旅行会社、個人からの依頼に応じ派遣を行う。	大山町観光協会, 江府町観光協会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	勉強会・研修会への参加人数		23人(実績)
2020年			22人(実績)
2021年			22人(実績)
2022年	勉強会・研修会への参加人数		40人
2023年	勉強会・研修会への参加人数		60人
2024年	勉強会・研修会への参加人数		70人
事業費	2022年： 689,000円 2023年： 未定 2024年： 未定		
継続に向けた事業設計	実施主体の事業予算において事業を行う。協議会や関係自治体は講師派遣などの支援を行う。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	日本遺産基盤整備事業		
概要	地域内外の人々に日本遺産のストーリーを知ってもらうために必要となる基盤を整備する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	構成文化財整備事業	構成文化財の整備を行う。大神山神社奥宮は、柿葺きの屋根全面葺き替え及び木部部分解体による保存修理を令和3年度から令和8年度にかけて行う。また、大山町所子伝統的建造物群保存地区の修理・修景事業を継続して実施する。	構成文化財管理者、構成市町など
②	案内板設置事業	日本遺産構成文化財に日・英・韓・中国語を配した多言語案内板を設置する。	協議会
③	観光資源等解説文の英語化	看板を設置できない構成文化財や、ストーリーを語る上で重要な観光資源の説明の英文解説を制作し、説明媒体を作成する。	協議会、構成市町
④	ガイダンス施設整備	大山自然歴史館、大山町観光案内所（コモレビト）、の継続的な整備を行い、どのような日本遺産なのかを知ってもらうための環境を整える。	ガイダンス施設
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	整備された構成文化財の数・案内板数		文化財1+案内板2(実績)
2020年			文化財2+案内板0(実績)
2021年			文化財2+案内板0(実績)
2022年	整備された構成文化財の数・案内板数		文化財2+案内板2
2023年	整備された構成文化財の数・案内板数		文化財2+案内板3
2024年	整備された構成文化財の数・案内板数		文化財2+案内板2
事業費	2022年：214,793千円 2023年：279,570千円 2024年：284,730千円		
継続に向けた事業設計	構成文化財の整備にあたっては、国・県補助金等を活用し、所有者の負担金、ふるさと納税、その他寄付金などを充てて行う。案内板設置事業・コンテンツ多言語化事業は協議会及び各市町の財源で行う。ガイダンス施設整備は施設の財源で行う。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	ガイドツアーの販売		
概要	日本遺産のストーリーを主とするガイドツアーの販売。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	プロガイド育成事業	大山の環境に配慮し、日本遺産を含めた大山の資源を活かしたアクティビティが楽しめる持続可能な観光地域づくりを推進するためのプロガイドを育成する。	(一社)大山観光局
②	山陰限定通訳案内士スキルアップ事業	すでに養成講座を終え合格している通訳案内士に対し、ガイディング技術のスキルアップ研修を行う。	(一社)山陰インバウンド機構
③	観光マイスター養成研修	タクシー・ハイヤー協会(旅客輸送事業者)、旅館組合等と協働し、ある一定のレベルの観光案内・おもてなしの出来る観光マイスターの養成を行う。	大山山麓・日野川流域観光推進協議会
④	ガイドツアー販売	OTA掲載のほか、旅客輸送事業者窓口や、大山観光局ホームページのツアーサイト、山陰インバウンド機構の通訳案内サイトによりツアー販売を行う。	旅客輸送事業者、(一社)大山観光局、(一社)山陰インバウンド機構ほか
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			2,247,000円(実績)
2020年	大山観光局の日本遺産関連ガイドツアーの販売額		1,172,000円(実績)
2021年			2,419,000円(実績)
2022年	大山観光局の日本遺産関連ガイドツアーの販売額		2,660,000円
2023年	大山観光局の日本遺産関連ガイドツアーの販売額		2,926,000円
2024年	大山観光局の日本遺産関連ガイドツアーの販売額		3,219,000円
事業費	2022年: 2,300,000円		2023年: 未定
			2024年: 未定
継続に向けた事業設計	ガイド育成は実施主体の予算で取り組む。ツアー販売は販売主体がツアー販売により得た収入で行っていく。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-B)

事業名	日本遺産関連商品・サービスの開発・造成		
概要	日本遺産のストーリー関連商品の企画・造成支援、新たな体験コンテンツの企画・造成支援		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ストーリー関連商品の販売・企画	大山おこわ、大山そばといった構成文化財となっている食の販売を、販促ツール等の配布により支援する。ストーリーに関連した新たな体験コンテンツの造成を支援する。	観光関連事業者（小売店、飲食店、土産品店など）
②	日本遺産×アクティビティの推進	日本遺産×サイクリング、日本遺産×ロゲイニング、日本遺産×グリーンスローモビリティといったコンテンツの造成支援を行い、新たな顧客層の獲得につなげる。	鳥取県西部商工課産業支援センター、大山ツーリズム協議会ほか
③	商談会への参加	山陰インバウンド機構、鳥取県観光連盟、JR西日本等が主催する商談会へ参加し、日本遺産関連商品、体験コンテンツの販路拡大につなげる。	協議会、観光関連事業者
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	日本遺産関連商品を取り扱う事業者数		51社（実績）
2020年			40社（実績）
2021年			43社（目標）
2022年	日本遺産関連商品を取り扱う事業者数		50社
2023年	日本遺産関連商品を取り扱う事業者数		60社
2024年	日本遺産関連商品を取り扱う事業者数		70社
事業費	2022年：未定 2023年：未定 2024年：未定		
継続に向けた事業設計	商品の販売は事業者が行うが、事業者による継続的な販売が成り立つよう、日本遺産のPRを行っていく。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	学校教育との連携		
概要	地域内若年層への日本遺産への興味・関心をかきたて、ストーリーへの理解を深める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	小・中学校への普及啓発	ふるさと学習や課題学習で日本遺産についての学習を行う。	構成市町小・中学校
②	高校・大学等への講師派遣・出前授業等	高校・大学等での地域学習等に講師を派遣し、日本遺産についての講演を行い理解を深める。	構成市町村
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	小・中学生へのアンケートにより日本遺産の認知度を把握。「日本遺産を知っている」の回答率。		79% (実績)
2020年			82% (実績)
2021年			集計中
2022年	小・中学生へのアンケートにより日本遺産の認知度を把握。「日本遺産を知っている」の回答率。		83%
2023年	"		84%
2024年	"		85%
事業費	2022年： 0	2023年： 0	2024年： 0
継続に向けた事業設計	協議会が構成市町へ働きかけ、アンケート取得を行う。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-B)

事業名	地域・民間を巻き込むための普及啓発		
概要	地域住民が日本遺産のストーリーを理解し誇りに思えるよう、継続的な普及啓発を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域民間を巻き込むための普及・啓発	公民館や地域自主組織による日本遺産関連の歴史教室・講座等の開催	公民館・地域自主組織
②	地域を巻き込んだ継続型イベントの実施	お地蔵様の清掃やお地蔵様絵画展を行う「大山お地蔵様フェスティバル」、江戸時代中期より続く「加茂川まつり」を開催し、観光客と地域住民との交流を図る。	米子市中小企業団体青年中央会、加茂川まつり実行委員会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	講座・学習会・イベントの回数		83回(実績)
2020年			49回(実績)
2021年			59回(実績)
2022年	講座・学習会・イベントの回数		50回
2023年	講座・学習会・イベントの回数		55回
2024年	講座・学習会・イベントの回数		60回
事業費	2022年： 未定 2023年： 未定 2024年：未定		
継続に向けた事業設計	①については構成市町が中心となり、公民館や地域自主組織に働きかけ、広報媒体の配布などの事業支援を行う。②については、地元住民を主とした実行委員会で実施し、協議会はイベントのPRを行い、側面支援を行う。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	情報編集・発信事業		
概要	日本遺産のストーリーに関する情報とともに、地域内外の人々が来訪する際に必要となる基本的な情報についてHP等において情報発信を行う。またメディア周知を積極的に行い興味・関心の向上を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ウェブサイトの作成・継続的な更新	当圏域への来訪意欲を掻き立て、またガイドツアー申込への誘導を行う日本遺産 HPの定期的な更新。イベント・トピックを平均月2回以上更新する。	協議会
②	パブリシティ活動	日本遺産に関連づいたイベント、トピック等のプレスリリースを行うことにより、新聞テレビをはじめとしたメディア露出を図り、興味・関心の向上に繋げる。平均月2回以上のリリースを行う。	協議会、各市町、民間事業者
③	JNTO 認定観光案内との連携による情報発信	JNTO 認定観光案内所（米子国際観光案内所、大山町観光案内所）（カテゴリー1）への継続的な情報提供を行い案内所訪問者への情報発信を行う。	JNTO 認定観光案内所
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	ウェブサイトのアクセス数		13,852（実績）
2020年			13,762（実績）
2021年			18,500（目標）
2022年	ウェブサイトのアクセス数		25,000
2023年	ウェブサイトのアクセス数		30,000
2024年	ウェブサイトのアクセス数		35,000
事業費	2022年： 120,000円 2023年： 120,000円 2024年：120,000円		
継続に向けた事業設計	協議会予算・協議会ホームページでの有料広告収入等により運営を行う。		